日刊工業新聞

年月日	24	02	20	ページ	21	NO.	

金融もこなす事業会社へ

SMFL ⑬

挑戦する企業

循環経済で社会的価値創出

社長　橘　正喜氏

―「デジタル先進企業」を目指し、デジタル変革（DX）を進めています。

「DXは避けて通れないため、全社員がDX人材になってもらいたい。施策を通じて社員の意識が高まっており、手応えを感じている。DX分野では社内業務の効率化や営業支援に加え、ソリューションの外販にもつなげている。売り出しているクラウド型資産管理サービス、AI―OCR（人工知能を使った光学式文字読み取り装置）の質をさらに高めていく」

―2030年に経常利益2000億円を目指しています。

「（25年度を最終年度とする3カ年の）中期経営計画では（資産売買で資本効率を高める）資産回転型ビジネス、トランスポーテーション事業におけるヘリコプターリース、東南アジアを中心とした不動産・環境ビジネス、サーキュラーエコノミー（循環経済）などに力を入れている。稼ぐ力が高まり、既に経常利益目標の背中が見えてきた。ただ、目標達成には新しい稼ぎ頭が必要だ。それを生み出すことができなければ、他社から置いていかれるという健全な危機感を社内で共有している」

―海外展開の方針は。

「今後、新興国の需要をどうやって取り込むかが重要だ。シンガポールを起点にした不動産や環境事業など、強みを発揮できるところを選びながら進めたい。トランスポーテーション事業では世界の成長とともに拡大してこれた」

―「地球にやさしいリース」を業界に呼びかけました。

「リース会社は再生可能エネルギー事業に熱心だ。加えて、使用したモノをどうやって再利用や再資源化するかについて無関心ではいられない時代になっている。循環経済を実現するのに最も近いポジションにおり、（経済的な価値だけでなく）社会的な価値の創出にもつながる動きなので業界として取り組みを進めたい」

―今後、特に力を入れることは。

「事業を通じた社会的な価値の創出にリース会社らしく取り組んでいきたい。金融機能だけでなく、自ら事業に柔軟に取り組めるポジションにいることも生かし、社会的な価値の創造に挑戦していく」

（この項おわり。石川雅基が担当しました）

無断転載・複写禁止ⓒ㈱日刊工業新聞社